

仙台ニューフィル11月に30周年公演

「目標とされる音楽を」

ブルックナー「8番」披露

仙台市のアマチュアオーケストラ、仙台ニューフィルハーモニー管弦楽団の創立30周年を記念した第55回定期演奏会が11月3日、同市青葉区の東京エレクトロンホール宮城で開かれる。指揮は東邦音楽大特任准教授の末広誠さんで、12回目の共演。1981年創立だが、昨年は東日本大震災のため会場が確保できず、1年遅れての実施だ。



リートの葬送行進曲」。

「第8番」はブルックナーの交響曲9曲の中でも最大の規模を持ち、演奏時間は80分を越す。フルートの山江崑さん(●)は「ブルックナーは長大だという印象が強いが、実際はチャーミングな部分がちりばめられていて楽しい」と強調する。

演奏会にはエキストラを含め90人が出演する。

同団は、当初はプロ・アマ混成だった宮城フィルハーモニー管弦楽団(現仙台フィル)が78年にプロ化したのに伴い、アマに残ったメンバーが中心となって結成した。現在の団員は公務員や主婦、学生ら20代から60代までの約70人。2010年には宮城県芸術選奨を受賞している。

今回の曲目は、ブルックナー「交響曲第8番」(第2稿ハース版)と、ワグナーの楽劇「神々の黄昏」より「ジークフリートの歌」。

開演は午後6時半。入場料は一般1000円、高校生以下500円。連絡先は同事務局090(46631)4732。

初代団長の故山路厚雄さんの妻で、創設時から在籍するバイオリンの山路節子さん(●)は「創設当初は20人程度だった。メンバーが増え、水準もアマとしては高い方だと思う。理想としてはバイオリンをもう少し増やしたい」と語る。

団長でホルンの熊谷仁さん(●)は若い世代に「大人になったら、ここで演奏したい」と目標にされるような音楽をつくりたい」と話す。

記念演奏会に向け練習する仙台ニューフィルハーモニー管弦楽団の団員たち